株式会社エピオス　御中

試験報告書

液状検体のインフルエンザウイルス・ネコカリシウイルスに対する抗ウイルス不活化評価試験

Ｒ７－５

令和７年６月27日

特定非営利活動法人（NPO法人）
バイオメディカルサイエンス研究会

試験内容を公表する際は、専門用語等の確認をさせていただきますので、試験担当者までご連絡ください。

1. 試験目的

貴社提供試験品「次亜塩素酸水」のインフルエンザウイルス及びネコカリシウイルスに対する抗ウイルス効果を測定することを目的とした。

2. 依頼者

名　称：株式会社エピオス

所在地：〒135-0047 東京都江東区富岡１－２６－１５飯田ビル３Ｆ

電話:03-5245-4160　Fax:03-5245-4155

担当者：代表取締役　七谷順子様

E-mail: 七谷順子〈junko.shichi@gmail.com〉

3. 試験機関

名　称：特定非営利活動法人　バイオメディカルサイエンス研究会

バムサ習志野実験施設

所在地：〒275-0024　千葉県習志野市茜浜 1-12-3　BMSA-習志野実験施設

電話:047-451-2419　Fax:047-489-1073

担当者：バムサ実験施設　研究主幹　三宅　幸一

E-mail:miyake@npo-bmsa.org

4. 試験期間

令和 7 年 6 月 13 日～6 月 27 日

5. 試験品

①被験品(次亜塩素酸水 50ppm、100ppm：500ppm を滅菌 DW にて希釈し使用)

②PBS(ブランク)

6. 作用条件

作用時間：インフルエンザウイルス　30 秒・60 秒

ネコカリシウイルス　1 分・5 分

作用温度：24℃（室温）

7. 供試ウイルス

インフルエンザウイルス:ATCC VR-1679 Influenza A virus(H3N2)

ネコカリシウイルス:F9 株　ATCC　VR-782

8. 使用細胞

MDCK (犬腎臓由来) 細胞　国立感染症研究所より分与
CRFK (猫腎臓由来) 細胞　ATCC　CCL-94

9. 試験方法

液液試験法（ウイルス液：被験液＝1：9)

10. 試験手順

①試験に用いた各ウイルス (試験ウイルス液) には、組織培養維持液（MEM 培地）以外のタンパクは添加せず。

②試験管内に試験品 0.9mL と試験ウイルス液 0.1mL を加え、試験管ミキサーで混合して、室温で所定の時間作用させた。

③試験品のウイルスに対する作用停止は、作用液を Eagle MEM で 10 倍希釈した。
試験対照（ブランク）は試験品の代わりに PBS を用いた。
ウイルス感染価の測定は、試験品の作用を止めた試験品、ウイルス混合液を EagleMEM で 10 倍段階希釈し、プラーク試験により感染価を測定した。

11. 試験成績

下表の試験成績を得た。

表 各ウイルスに対する不活化効果

試験品		Log ウイルス感染価 (PFU/0.1mL)			
		インフルエンザウイルス		ネコカリシウイルス	
次亜塩素酸水	50ppm	30 秒	<2.0	1 分	4.7
		60 秒	<2.0	5 分	<2.0
	100ppm	30 秒	<2.0	1 分	3.0
		60 秒	<2.0	5 分	<2.0
ブランク (PBS)		60 秒	6.0	5 分	6.3
使用ウイルス感染価		5.7		6.7	

※使用した細胞 MDCK 及び CRFK において、10^{-1} 希釈では、細胞に欠損が確認された。これは、被検品による細胞毒性と考えられる。

今回の試験結果より、貴社提供試験品　次亜塩素酸水は、インフルエンザウイルスについては、50ppm・100ppm ともに 30 秒でも 4Log 以上のウイルス感染価の減少を示した。

ネコカリシウイルスについては、50ppm・100ppmともに5分では4 Log以上のウイルス感染価の減少を示した

以上